

2018年度年金額は据え置き

政府・与党は「骨太方針2015」にもとづき、社会保障給付費の自然増を徹底的に押さえ込んでいます。2016年度に1,700億円、17年度に1,400億円を圧縮し、今国会で審議されている2018年度予算でも1,300億円をカットする方針です。それが通れば、社会保障給付費はこの3年間だけでも4,400億円圧縮されることとなり、その分は各種制度のサービス低下と保険料の値上げ、窓口負担の増額などとなって、すべて国民の暮らしに跳ね返ってきます。

2018年度は診療報酬・介護報酬の同時改定がおこなわれます。政府の改定方針は「どこに住んでいても適切な医療・介護を安心して受けられる社会の実現」で、具体的には病院医療・施設介護から在宅医療・訪問介護へ、そのためには「地域包括ケアシステムを推進する」としています。退職者連合・地公退は「在宅生活支援世帯の拡充、訪問介護の質と専門性の充実」、「介護保険の一部3割負担導入、医療保険の資産勘案自己負担導入など、医療・介護両制度の違いを無視した横並びの負担増・給付抑制を実施しないこと」を求めて、各政党要請を行っています。

マクロ経済スライド「キャリアオーバー0.3%」発生

2018年度の年金額改定

1月26日、厚生労働省が公表

年金額は昨年度から据え置き

総務省から、1月26日、「2017年平均の全国消費者物価指数」（生鮮食品を含む総合指数）が公表されました。これを踏まえ、2018年度の年金額は、2017年度から据え置きとなることから、厚生労働省から公表されました。

訃報



清水史朗副会長 逝去

長年、北退教会長・日退教副会長を歴任していましたが、2月3日に亡くなられました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

写真は、退連高齢者集会のもので

(2017年9月)

【2018年度の新規裁定者（67歳以下の方）の年金額の例】

	2018年度（月額）
国民年金 （老齢基礎年金（満額）：1人分）	64,941円
厚生年金※ （夫婦2人分の老齢基礎年金を含む標準的な年金額）	221,277円

※ 厚生年金は、夫が平均的収入〔平均標準報酬（賞与含む月額換算）42.8万円〕で40年間就業し、妻がその期間すべて専業主婦であった世帯の年金を受け取り始める場合の給付水準。

年金額の改定ルール

年金額の改定については、賃金水準の変動がマイナスで物価水準の変動がプラスとなる場合には、年金を受給し始める際の年金額（新規裁定年金）、受給中の年金額（既裁定年金）ともにスライドなしとすることが規定されています。

2018年度の年金額は、年金額改定に用いる名目手取り賃金変動率がマイナス（▲0.4%）で物価変動率がプラス（0.5%）となることから、新規裁定年金・既裁定年金ともにスライドなしとされます（マクロ経済スライド※1による調整は行われず、未調整分は繰り越されることになります※）。

※1「マクロ経済スライド」とは

現役被保険者の減少と平均余命の伸びに基づいて、スライド調整率が設定され、その分を賃金や物価の変動がプラスとなる場合に改定率から控除するもの。したがって、2018年度の年金額改定においては、マクロ経済スライドによる調整は行われない。

◆スライド調整率（▲0.3%）

※ 平均的年金被保険者数の変動率（▲0.0%）

× 平均余命の伸び率（▲0.3%）

（2014～2016年度の平均）

※2マクロ経済スライドの未調整分について

2016年に成立した年金改革法により、マクロ経済スライドによって前年度よりも年金の名目額を下げないという措置は維持した上で、未調整分を翌年度以降に繰り越す仕組みが導入された。この年金額改定ルールの見直しは2018年4月から施行され、2018年度以降に発生したマクロ経済スライドの未調整分が繰越しの対象となり、今回はじめて発生した。

ジェンダー平等のとりくみ — 2017年度 —

1. 「女性の集い」 2017年9月14日

(写真は、すべいこの集いの発言者です。一部省略)

これは各県のジェンダー平等のとりくみや困難さを出し合い、交流と互いにエンパワメントしたいという目的で昨年から始まった集まりです。今年は退職者連合高齢者集会の後、13単会25名(男性9名)で行いました。

各県の報告では『運動の中で《お茶くみは女性!》という現実を5年かけて変えてきたこと』『女性が発言しても《女と年寄りのいうことはほっておけばいい》という風潮』『退職後町内会役員を引き受けたら男ばかり、男社会の男視点

だ、運動は退女教と一緒にとりくんではいる』
『受付は女性』など無意識の偏見がある。制度と意識の両輪で変えないと! (男性の発言)』
『副会長を女性枠にし、女性が入っていくことで運動が変わっていく』
また会員が増えない悩みや『総会代議員は会長・事務局長がなるので女性が入れない』等女性参画の難しさやブロック活動の困難さ等が率直に語られました。

また沖繩の参加者から辺野古での本格的工事を遅らせている現状と《あきらめないことが勝つこと》という気持ちで頑張っている。そして本土の支援に励まされるという話がありました。

2. 「男女共生委員会」 2017年11月30日

ブロック代表男女共生委員、男女共生部、組織部、事務局、計15単会20名で行いました。

(ア)女性参画状況アンケート報告
日退教会員の約3割は女性ですが、総会代議員や役員に女性は少数です。方針決定の場にまず3割の女性が参画しなければ、当事者の意見が反映できて

いるとは言えません。また《ジェンダー平等》や《女性の参画》を活動方針にして、とりくみをすすめることも大切です。(イ)ブロックのジェンダー平等のとりくみ報告
『各地区が集まり年1回女性部委員会を行い、役員に女性が入って発言できるようとりくんでいる』『組織は男女別



松原厚世さん
(大分県退)



石井澄子さん
(福岡県退)



安慶名つる子さん
(沖縄県退)



平山泰子さん
(神奈川県退)



江口千冬さん
(佐賀退)

11月のトランプ・安倍会談でも明らかのように、辺野古移設は『沖繩の負担軽減』のためではなく、『在日米軍の維持・抑止力』を目的とし、本質は日米軍事同盟の強化と再編である。この会談後数百台のダンブと最大量の土砂が搬入され、海からも環境評価を無視して砕石が運ばれている。私たちは些細なことでも逮捕され、山城さん逮捕も彼が雨の日の高齢者を気遣い「抵抗しなくていいよ」と言い皆テントに避難した。そして機動隊が座り込み用ブロックを片づける状況をブツにのり、全国からブロックが送られてきて、それを積んだことで罪を問われている。

日本軍はアジアで殺人・強姦を行い慰安所も作った。日本の残虐行為はアジアの人たちの中に恐怖をとどめている。アメリカ兵も戦争中から始まり、占領後は収容所・野戦病院・畑・道端・家の中に押し入るなど所かまわず悲惨なレイプや殺人を犯した。それをやめさせようとする警官や家人は殺された。レイプは9か月の赤ちゃんから少女・成人・高齢者そして男の子とあらゆる人に及んでいる。この戦争体験者の恐怖が今でも心や体の痛みとして人々を苦しめている。

ベトナム戦争時代は米兵の暴力は基地周辺の「売春地帯」で働く女性たちに向けられた。1年間に4人もの女性が絞殺されて、溝に捨てられた。その裏には絞殺される寸前に逃げた人がたくさんいた。貧しい、或いは戦争によって人生を壊された女性たちはAサイン(性病検査を全員義務付けられる)の店で働かざるを得なかった。この時期この女性たちの稼ぎはパイナップルやさとうきび産業

など沖縄の基幹産業を上回るものだった。そして「売春地帯」で彼女たちが《性の防波堤》とされていて、一般地域で性暴力被害は起こっていた。

復帰後の米兵による凶悪犯罪のなかでもレイプ被害者は圧倒的に訴えないし、取り下げも多い。日米地位協定で米兵が守られていることもあるが、日本のレイプ事件でも沈黙する被害者が多い。

勇気をもって過去の自分の被害を訴えた女性に町

村外相は「お気の毒だが、米軍と自衛隊に日本は守られている。」と答えた。私たちはもう沈黙しない

「NO・レイプ」「NO・オスプレイ」「NO・ベール」と海兵隊の撤退を求めている。「辺野古にNO!」と言いつけることは、新たな軍事強化に対するNO!である」韓国・フイリピンなど米軍基地のある国ぐにの女性たちともつながって軍事力によらない平和をめざしている。

3. 「男女共生部会」 2018年1月29日

関東ブロックの男女共生部会員と事務局計8名で行いました。

①ジェンダー平等に関する情勢

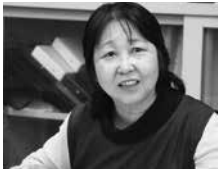
☆立憲民主党ジェンダー平等推進本部第1回総会の報告



山中千枝子さん
(高知退)



芥川治子さん
(都高退)



畑三千代さん
(奈良県退)



前田嘉代子さん
(千葉高退)



村山恵美子さん
(千葉高退)



上村和代さん
(福岡高退)



山根正子さん
(北退教)



大場みどりさん
(北退教)

「立憲民主党はあらゆる面でジェンダーの視点を取り込むジェンダー主流化を進める。」

☆日本軍「慰安婦」問題Ⅱ韓国への検証「日韓合意は不均衡」
日韓合意は当事者を排

除した政府間の談合・妥結である。そして日本政府と軍が慰安所を設置・運営・管理し、女性たちを「慰安婦・性奴隷」として強制的な状況に置いたことを認めていない。又韓国だけではなく当時の占領地において女性への性被害・人権侵害があつたことも認めていないなど。」「検証」を考えるにあたっては日韓合意に立ち戻って、問題点やユネスコ世界記憶遺産問題、そしてネット上での少女像への憎悪や攻撃について学びました。

☆性暴力被害者の告発
「#ME TOO」

性暴力被害者を貶める2次被害を許さず、当事者を支え、刑法改正にもとりくみたいと問題提起がありました。

②性犯罪に関わる刑法とジェンダー

1907年(明治40年)

に作られた強姦罪は夫や父に従属する妻や娘の「貞操」を守るものでした。

一方遊郭に働く女性に貞操はなく男に性を提供するのを強いられました。又女だけが罰せられる堕胎罪は植民地政策を進めるために人口増加を図るものでした。これまで女性の性と生殖に関わる身体は、女性のものではなく、家父長制社会の性道徳や国家に支配されてきました。現在でも堕胎罪があります。強姦の「暴行・脅迫要件」も残っています。また憲法24条の改悪「個人の尊厳より家族」ももくろまれていきます。アメリカと共に戦争をする国を支える「家族」のために女性の身体が再び利用されることを許してはいけません。

③「裸足で逃げる」・沖縄の少女たちへの性搾取
沖縄出身の上間洋子さ

んが「虐待・少女買春・強姦・ネグレクトなどの暴力の中で育ち、そこからひとりで逃げ出し、自分を作り上げていく少女たちの物語」を著した本について紹介されました。「暴力は自分を大切に思う気持ちを徹底的に破壊する。だから私たちは暴力を受けた人のそばに立たなくてはならない」という言葉が心に残りました。文責 本村富美子



2018年度
第47回日退教総会
6月8日(金)

「生きがい支援協会」2018年度の事業に積極的に参加を！

開催地の会員は、誘い合って参加をしましょう!!

支援事業…全国余暇活動支援事業、矯正施設における教科指導ボランティア、地域における学校支援ボランティア、東日本大震災における支援事業、健康支援事業、経済生活支援事業（相続・遺言相談、法律相談）なども行っています。
なお、開催される県では、年間計画に予定をいれて、4月から取りくみましょう！

「第10回シニア・ピア・カウンセラー養成セミナー」

（傾聴ボランティアセミナー）

7月5日（木）～6日（金） 札幌市・ホテルライフオー・札幌

7月19日（木）～20日（金） 同上（公立学校共済組合施設）

「第40回生きがい支援アドバイザー養成セミナー」

9月6日（木）～7日（金）

鹿児島市・ホテルウェルビューかごしま

「コーディネーター養成セミナー」

新企画「地域ボランティア全国交流会（仮称）」

9月27日（木）～28日（金）

大阪市・ホテルアウィーナ大阪

「第7回絵手紙講習会」

10月3日（水）

福井市・福井教育センター

「第11回退職教職員・全国囲碁大会」

11月15日（木）～16日（金）

市ヶ谷・日本棋院東京本院

「第12回講演会」

11月22日（木） 予定

水戸市・ホテルレイクビュー水戸 予定

機関誌「悠悠ライフ」の発行

第68号 5月中旬

「第5回東アジア海外研修旅行」参加者募集を掲載

第69号 11月中旬

詳細は、「悠悠ライフ」第68号をご覧ください。なお、会場は未確定の所があります。

問い合わせ先：〒162-0067新宿区富久町8-21 T & Tビル 8 F

H P : <http://www.ikigaishien.or.jp/> ☎03-5919-2391 ☎03-5919-2392

◆編集後記◆

平昌冬季オリンピックでの南北朝鮮の和解のムードをしり目に、前段では、バルト三国まで乗り込み、朝鮮民主主義人民共和国への脅威を煽り、制裁の強化を吹聴し、オリンピックでの南北の融和が促進されると、「微笑み外交」へ悪罵を投げかけた。この戦後最悪な安倍政権の下、拙者は、来年も週3日、高校の社会科の非常勤教員として、教壇に立つ。森友問題を契機に、「教育勅語」を復活させようとし、更に、本年は、戦前回帰を目指して、ナント、戦後民主主義の象徴ともいふべき11月3日（自由と平和を愛し、文化を進める日＝文化の日＆戦後民主憲法公布日）を安倍の応援団である「日本会議」グループは、「明治の日推進協議会」を結成し、「日本国が近代化するにあたり、わが民族が示した力強い歩みを後世に伝え、明治天皇と一体となり国作りを進めた、明治の時代を追憶するための祝日に」と暴論を吐き、その祝日化を狙っている。また、2022年の高校の地歴・公民の分野での学習指導要領の改定では、「公共」（新教科）で「自国を愛し…」を強要、領土問題では「尖閣諸島は我が国固有の領土であり、領土問題は存在しないことを」扱うとなっている。歴史教科では、日本と世界の近代史を統合した「歴史総合」という新教科を設定。それに対し、自民党は、近現代史を修正せんと「歴史を学び未来を考える本部」という組織（下村 博文、稲田 朋美）を立ち上げ、明治以来の侵略とアジアの植民地化の歴史を歪曲し、本年6月までに「明るい明治、近代」に修正意見を集約し、文科省に圧力をかけようとしている。そして、その先に、憲法改悪を狙っている。戦争の悲惨をなめた両親を持ち、戦後民主教育の中で育った筆者は「アンカーのいないリレーのように」、歴史を直視し、負の歴史を現役の教員に伝えていかななくては。その一助として、今年度も、日退教が企画する「第5回東アジア海外研修旅行」10月15日～19日に万難を排して参加してみてもいいでしょうか。

（N）